

日本労働年鑑 第54集 1984年版
The Labour Year Book of Japan 1984

第二部 労働運動

XIII 政党

7 日本共産党

3 大会・中央委員会

(2) 大会後の中央委員会

二中総

八二年一〇月二〇～二三日開催。二中総は「第一六回党大会および第一回中央委員会総会の決定の実践、とくに『二つの柱』の運動の推進について」と、中央委員会の問題別委員会の報告、「日本共産党の六〇年」(案)についての説明、中央委員会総会の決議起草委員会の任命などを議題とし、不破委員長が幹部会報告、宇野常任幹部会委員が「学習教育と正しい党風確立について」、茨木常任幹部会委員が「選挙準備と基礎票構築について」それぞれの運動委員会を代表して報告した。総会は、二中総決議「情勢の革新的打開、選挙戦勝利のために、『二つの柱』の全党運動に総力を」を採択して閉会した。

三中総

八三年一月一八～一九日開催。三中総は、「党大会および中央委員会の決定実践の問題点と当面の中心課題」、「党務報告」を議題とし、不破委員長が幹部会報告、金子書記局長が党務報告をおこなった。このなかではとくに、中曽根内閣の一連の攻撃にたいし、これを阻止し、痛撃を与える最大のカギは選挙での共産党躍進にあること、その基本は、政策、歴史、組織・運動のたたかいであり、党は政策、歴史では確固としたものをもっているが、機関紙の後退という重大事態にあることなどが明らかにされ、「臨戦特別大運動」が提起された。総会后、三中総決議「大会決定実践と歴史的選挙戦での躍進をめざす臨戦特別大運動について」が発表され、不破委員長を責任者とする「運動本部」が設置された。

四中総

八三年五月七～九日開催。四中総では、不破委員長が統一地方選の総括と参院選をめざす方針について幹部会報告をおこなった。とくにこのなかで、不破委員長は、「参議院議員選挙をめざす日本共産党の訴え」を学習すること、わが国特有の根深い反共風土を重視して、党のおし出し、反共反撃、偏見打破の宣伝を全有権者規模で旺盛に展開すること、「なんとかなる」の気分や傾向の一掃が決定的に重要であることを強調。また、基礎票の構築、とくに、機関紙読者の減退を放置せず拡大に力をつくすこと、確実な配達・集金活動、読者に依拠してたたかりことが勝利にとって不可欠であることを改めて指摘した。また「臨戦特別大運動本部」は、「選挙闘争等推進臨戦特別大運動本部」に改め、名実ともに選挙闘争を中心とした指導体制をとることが明らかにされた。総会終了後、四中総決議「参院選挙へ全党総決起を——いっせい地方選の教訓を生かして」が発表された。

なお、各総会の諸報告、決議の詳細は『理論政策』第一七八号(八二年一月二〇日)、第一八一号(八三年二月二〇日)、第一八五号(八三年六月二〇日)に収録されている。

日本労働年鑑 第54集 1984年版

発行 1983年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 ●

2001年8月28日公開開始

■←前のページ 日本労働年鑑 1984年版(第54集)【目次】次のページ→■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
